



風景と心情

漢詩を味わう

目標

- 詩の形式や表現の工夫などを理解して、漢詩を音読し、暗唱する。
- 漢詩を読んで情景の描写を捉え、心情を理解する。

中国で古くからよまれてきた詩を「漢詩」といいます。中国の唐の時代（六一八―九〇七）には、李白や杜甫をはじめとする多くの詩人が現れ、優れた詩が数多く作られました。わが国には奈良時代に伝わり、今日まで、日本の文学に大きな影響を与えてきました。

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る

李白

故人 西のかた黄鶴楼を辞し
故人 西 辞 黄鶴楼

煙花三月 揚州に下る
煙花 三月 下 揚州

孤帆の遠影 碧空に尽き
孤帆 遠影 碧空 尽

惟だ見る 長江の天際に流るるを
惟 見 長江 天際 流

5

黄鶴楼

武昌（現在の湖北省

武漢）の南西、長江岸

にあった高樓。

孟浩然

六八九―七四〇 唐の

時代の詩人。

広陵

揚州（現在の江蘇省

揚州）のこと。

故人

旧友。ここでは孟浩然

のこと。

煙花 春の霞。

天際

天の果て。空のはるか

遠くの方。



花 落 つ る こ と 知 る 多 少	夜 来 風 雨 の 声	処 処 啼 鳥 を 聞 く	春 眠 曉 を 覚 え ず	春 曉 孟 浩 然
花 落 知 多 少	夜 来 風 雨 の 声	処 処 聞 啼 鳥	春 眠 不 覚 曉	



現在の黄鶴楼（二十世紀後半に再建されたもの）

古くからの友人（孟浩然）は、（広陵より）西の方角にある黄鶴楼に別れを告げ、春の霞が立ち上る三月に、（長江を）揚州に向けて下っていった。

（友が乗る）一そのの帆掛け舟の遠い影も、青空に（吸い込まれて）見えなくなり、ただただ、長江が天の果てまで流れているのを見ているばかりである。

李白（七〇一―七六二）の作品は、日本でも愛唱されてきました。彼は、若い頃から唐の国内を放浪し、数多くの名作を残しています。その豪快で自由奔放な作風から、「詩仙」と称されています。

《出典》『新釈漢文大系19 唐詩選』によった。

.....
 ▼ 浪
 ▼ 奔
 ▼ 称



春望しゆんばう

杜甫

国破れて 山河在り

城春にして 草木深し

時に感じては 花にも涙を濺ぎ

別れを恨んでは 鳥にも心を驚かす

烽火 三月に連なり

家書 万金に抵たる

白頭 搔けば更に短く

渾べて 簪に勝へざらんと欲す

渾	白	家	烽	恨	感	城	国
ベテ	頭	書	火	ンテハ	ジテハ	春	破
欲	搔	抵	連	レ	ニ	ニシテ	レテ
ス	ケバ	タル	ナリ	レラ	ニ	ニモ	山
不	更	万	三	鳥	花	草	河
レ	ニ	一	一	ニモ	ニモ	木	在
勝	短	金	月	驚	濺	深	リ
ハ	ク	ニ	ニ	カス	ギ	シ	
簪				心	涙		
ニ				ヲ	ヲ		

5

春望 春の眺め。

国破れて

国都長安（現在の陝西省西安）が、安史の乱（七五五―七六三）のために破壊されたことをさす。

城

ここでは長安の街をさす。中国の都市は城壁に囲まれていた。

烽火

ここでは戦火のこと。

三月

三か月。または、長い期間。

家書

家からの手紙。

白頭

白髪頭。

簪に勝へざらんと欲す

髪の毛が少なくなつて、簪もさせないほどになっている。「簪」は冠を髪にとめるためのピンのようなもの。



長安城に隣接して新しい都市が広がる現在の西安



唐の時代の中国

国都長安の秩序は（安史の乱のために）破壊されてしまったが、山や河は昔のままに存在している。長安は春になって、草木が生い茂っている。時勢のむごさに心を痛めては、心なごむはずの花を見ても涙を流し、（家族との）離別を恨めしく思っでは、楽しいはずの鳥の鳴き声にも心が乱れ騒ぐ。戦火の煙は、三か月あがつており、（そのため）家からの便りは、大金に匹敵するほど貴重である。白髪頭をかきむしると、髪の毛は抜けて少なくなり、かんざしで冠を髪にとめようと思っても、全くとまりそうもないほどになっている。

杜甫（七一二―七七〇）も、日本人に愛されてきた詩人です。彼も、李白と同様に各地を放浪しながら、叙事・叙情の両方面で格調高い詩を数多く創作し、その高潔な人柄から「詩聖」と称されています。

《出典》『漢詩大系9 杜甫』によった。

.....
 ▼ 叙 冠 秩

15

10

5

千 みちしるべ

内容を捉えよう

- 漢詩を繰り返し返し音読し、暗唱しよう。

読み深めよう

- 「漢詩の表現の特徴」(P141)を参照し、それぞれの作品の対句や韻について理解しよう。
- 李白と杜甫の漢詩に描写された情景や作者の心情について文章にまとめよう。

自分の考えを伝え合おう

- 好きな漢詩を選び、気に入った理由を発表し合おう。

振り返り

- 李白や杜甫の詩の形式や表現の工夫を理解しているか。
- 教科書の漢詩からどのような情景や心情を読み取っているか。

この教材で学ぶ漢字

137 奔 ホシ 奔走

137 浪 ロウ 浪費

139 秩 チツ 秩序

137 称 ショウ 愛称

139 叙 ショ 叙述

139 冠 カン 栄冠
冠を曲げる

新出音訓

136 黄鶴楼 (コウ・ロウ)

138 万金 (バン)

139 生 (おう・き)

「付表」の語

139 白髪 (しらが)

漢詩の表現の特徴

●絶句 『黄鶴楼にて……』のように、四句でできている詩を絶句といい、一句が五字のものを五言絶句、一句が七字のものを七言絶句といいます。

故人西辞黄鶴楼 第一句 (起句)

うたうきっかけを述べる。

烟花三月下揚州 第二句 (承句)

起句を受けて詳しく述べる。

孤帆遠影碧空尽 第三句 (転句)

別の角度から述べる。

惟見長江天際流 第四句 (結句)

全体をまとめる。

文章の書き方などに応用される起・承・転・結というのは、ここから出た言葉です。

●律詩 『春望』のように、八句でできている詩を律詩とい、一句が五字のものを五言律詩、一句が七字のものを七言律詩といいます。

●押韻・対句 『春望』の偶数句末には、「深(シン)・心(シン)・金(キン)・簪(シン)」のように、同じ響きの音

(韻)をもつ字が用いられています。これを韻を踏むまたは押韻するといい、漢詩の響きを美しくする効果があります。七言詩では、さらに第一句末も韻を踏みます。

また、『春望』の一句めと二句め、三句めと四句め、五句めと六句めのように、構造と意味が対応している二つの句を対句といいます。律詩には三句めと四句め、五句めと六句めを対句にするという規則があります。

日本人が作った漢詩

多くの日本人も、漢詩を創作して、自分の心情を表現してきました。次の作品も読んでみましょう。

翠岑を下る 良寛

薪を担ひて 翠岑を下る 担 薪 下 翠 岑

翠岑 路平らかならず 翠 岑 路 不 平

時に息ふ 長松の下 時 息 長 松 下

静かに聞く 春禽の声 静 聞 春 禽 声

翠岑 春の青々とした峰。

春禽 春の鳥。ここでは鶯のこと。

良寛 一七五八—一八三二 歌人・書家・僧侶。

《出典》『定本良寛全集 第一巻』によった。